

第15回男女共同参画フォーラム

日 時：令和1年7月27日(土) 13時30分

場 所：仙台勝山館

報告者：常任理事 貞永 明美

テーマ 「男女共同参画のこれまでとこれから ―さらなるステージへ―」

第15回男女共同参画フォーラムが、7月27日(土)、「男女共同参画のこれまでとこれから ―さらなるステージへ―」をテーマに仙台市内で開催された。

当日は、基調講演(1題)、報告(2題)、シンポジウム等が行われ、その成果を宣言として採決された。

●基調講演 「酸化ストレス応答と健康長寿と介護」

東北大学加齢医学研究所 遺伝子発現制御分野

教授 本橋 ほづみ

高齢化社会で、健康寿命の強化が注目されるなか、様々な環境因子に対する人間の環境応答の仕組みを研究。酸化ストレスに対しての研究で、転写因子「NRF2」がその仕組みの活性化に大きく寄与していること。「NRF2」の機能低下が加齢性難聴、心筋梗塞、脳梗塞の組織障害の重篤化に関与していること、またアルツハイマー病に関する研究成果を紹介し、抗老化作用も明らかになりつつあるとした。酸化ストレスに対する依存食物も大事で、野菜をたくさん食べる事、「NRF2」の活性化に寄与する野菜として、「ブロッコリースプラウト」「わさび」「ローズマリー」「ウコン」「カイワレ大根」などがあげられた。

ご両親の介護を通して「老い」の現実を日々肌で感じながら、進めつつある最近の研究内容を紹介された。

●報 告

1. 日本医師会男女共同参画委員会

日本医師会男女共同参画委員会 委員長 小笠原 真澄

今期の日医横倉会長からの諮問「男女共同参画の推進と医師の働き方改革」より、2019年に都道府県医師会における女性医師に関わる問題への取り組み状況調査を実施予定であること、また、厚生労働省の「医師の働き方改革に関する検討会」の報告でも、女性医師の離職防止、復職支援が必要な事。女性医師の働きやすい勤務環境の推進が言われているが、さらに検討していく項目として労働法制の周知、労働時間の管理法の検討。相談窓口の愚痴の機能充実などがあり、時間外労働の上限規制がどのような影響を及ぼすかについても検討していきたいとした。

2. 日本医師会女性医師支援センター事業

日本医師会 常任理事 小玉 弘之

事業として、求職登録者、就業成立状況共に順調に伸びていること、本事業の課題として日本医師バンクの全国展開としての「都道府県医師会担当者制度」を検討中であること。マッチングノウハウ、シニア医師、医業継承支援への事業展開に意欲を示した。

●シンポジウム

1 「新専門医制度」に対していただく期待と不安」

～女性研修医と女子医学生の立場から～

宮城県医師会 常任理事 福與なおみ先生

東北大学病院初期研修医 2年目 横山日南子先生

東北大学医学部 6年生 岩田 彩加さん

福與先生より、従来の専門医制度は「カリキュラム制」で、学会が一定の基準を満たす病院を研修施設として認定し、研修医が施設を自由に選択し研修できたため、専門医の資格を取得できたと思うと発言し、現行制度の仕組みに疑問を投げかけた。（新専門医制度は日本専門医機構が研修プログラムを認定し、研修医は決められた施設をローテートし研修するという難しい状況。）

岩田さん（東北大6年医学生）より、「ロールモデル」がないため不安があり、初期臨床研修病院を専門医取得まで見据え、選択する困難さを訴えた。また一方ではプログラムに乗れば一定の技術の習得など、取得基準の明確さなど、これから実行される期待も述べられた。

横山先生（初期研修医）は新専門医制度が過渡期であるため分からないことが多いとして、情報の周知徹底を求め、結婚、出産などにより別の都道府県に移動し研修の続行をする場合、どうなるのか、プログラムを中断せざるを得ない場合にどうすればいいのか、不安を感じていると述べられた。

専門医を取得する意義をもっと発信してもらいたい、不安要素が多いと述べられた。若い人の声はとて身につまされ、心に響く大切な声であった。より医師として、ひとりの人間として成長でき、充実できるよう先輩世代の課題として考えていきたい。

2 「医療界における男女共同参画は進んだか」

宮城県医師会女性医師支援センター 高橋克子センター長

2014年と2019年の日医のアンケート調査の結果を比較し、大学、学会、医師会の女性医師数の増加、また、意思決定の場における男女比の減少を示し、「着実に変化し、良い方向へと進んでいる」としながらも、まだまだ日本はいまだに女性医師に対する様々な差別があり、超えられない壁（ガラスでなく、鉄の天井）があると述べた。男女平等の意識の情勢、認め合う事、多様性、ワークライフバランス、の必要性を改めて訴えた。

3 「女性外科医の育成とワークシェア・ワークライフバランス」

自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長

一般・消化器外科 力山敏樹教授

外科医減少の今日、女性医師に退職せず働いてもらうための改革をおこなっている。環境整備として、子育て中の女性医師に対する「朝カンファレンス」「当直、夜間呼び出し」の免除等がある。その一方、抱えている問題、目指す事は十人十色で、それぞれに丁寧に対応することが大切。

本センターは平成23年度以降、入局39名中、10名が女性。チーム制、フレックス制の導入、職場の意識改革、ワークシェア、多職種への役割分担、家族の意識改革、などの工夫について話された。

－総合討論－

討論が活発に行われ、まとめとして今村聡日医副会長より、「新専門医制度に対して不安をもっている学生、若い医師の声を直接聞き、こころが痛んだ」としてうえで、日本専門医機構に働きかけ、不安解消への行動、環境整備の必要性を感じ、日医としてしっかり取り組むことを話された。また直接の声を、機構や日医に各都道府県の医師会を通じて届けて欲しいと訴えた。

最後に今回のフォーラムの成果として、男女共同参画フォーラム宣言が採択され、次期担当県医師会の本会近藤会長の挨拶がおこなわれ、閉会した。

第15回男女共同参画フォーラム宣言採択

宣 言

日本医師会男女共同参画フォーラムが平成17年に初めて開かれて以来14年の活動で得た成果を基盤にし、医療においてもワークライフバランスが重要という意識を確信した。この活動のさらなる発展を図るために、男女を問わず医師の働き方改革を進めながら、国民の医療に大きく貢献できる段階へと進化させることを決意し、以下、宣言する。

- 一. 多様な働き方を認め、男女を問わず豊かな医療人を育む
- 一. 指導的立場の女性医師を増やし、2020.30運動の理念を医師会・大学・学会ともに連携して推し進め結果を出す
- 一. 医師を目指すすべての人に対する、医育機関での公平で公正な対応を求める

令和元年7月27日

日本医師会第15回男女共同参画フォーラム